



軽防協ニュース速報

2024年第2四半期(4月-6月)の伝染病発生状況

2024年8月配信

(International Collating Centre からの情報)

この記事は、2024年第2四半期(4月-6月)の各国の伝染病発生状況の要約したものである。また、ICC 暫定(リアルタイム)のレポートでは報告されていなかった疾病発生状況の追加情報も含まれている。この追加情報は、本レポートの表と本文の該当する箇所に#印を付して示されている。ICC 暫定(リアルタイム)のレポートは、equinesurveillance@gmail.com から受信登録を行うことで e-mail による受信が可能となる。また、<https://equinesurveillance.org/iccview> のページ内にも、同内容のレポートや最新の流行状況が掲載されている。

このレポートに示されているデータには、各国の研究所での検査サンプルや、報告方法に多少のバイアスがあるかもしれないため注意して解釈していただきたい。そのため、これらのデータが必ずしも世界各地における馬の集団内での伝染病発生率を的確に反映しているわけではない。例えば、ある伝染病について発生報告がないからといって、必ずしもその伝染病がその国の中で存在していないということではない。以下の各表は国によって報告された病気の発生件数をまとめたものである。1件の発生で複数頭を含むものがある。

レポートは疾患区分別に記載する。

- ・繁殖疾患
- ・呼吸器疾患
- ・消化器疾患
- ・神経疾患
- ・その他の疾患

繁殖疾患

発生国	CEM	EHV-1	EHV-1/-4	EHV-3	EHV-4	Strep.zoo
ベルギー	-	3	1	-	1	1
フランス	-	3	-	3	2	-
ドイツ	4	-	-	-	-	-
日本	-	#4	-	-	-	-
オランダ	-	1	-	-	-	-
スウェーデン	-	#4	-	-	-	-
イギリス	-	2	-	-	-	-
アメリカ	1	-	-	-	-	-

#四半期後に報告があった追加情報

馬伝染性子宮炎 (CEM)

ドイツ

ブランデンブルク州、ニーダーザクセン州、ノルトライン・ヴェストファーレン州における4施設で各1頭ずつの発生が報告された。陽性診断はいずれもPCRで確認され、1件はPCRと生殖器スワブの培養によって確認された。

アメリカ

フロリダ州の1施設において、4頭（牝馬1頭、セン馬1頭、牡馬2頭）が感染したと報告された。細菌培養により陽性診断が確認された。

馬ヘルペスウイルス1型 (EHV-1) による流産

ベルギー

3件の流産が報告され、それぞれ東フランダース州、リエージュ州、リンブルフ州の施設においてそれぞれ1例発生した。陽性診断は胎子組織のPCR検査によって行われた。

フランス

オルヌ県、マンシュ県における施設で3件の流産が発生し、それぞれ単独発症であった。陽性診断は生殖器スワブ、胎子組織、胎盤組織のいずれかにおけるPCR検査によって行われた。

日本

4件8頭の流産が発生した。いずれもサラブレッド種であり5頭はワクチン接種、3頭は未接種であった。未接種の3頭は同一施設で飼育されていた。陽性診断はLAMPによって行われた。

オランダ

フリースラント州で 1 件、ワクチン未接種馬 2 頭の流産が報告された。同施設には他にワクチン接種馬を含む 60 頭が繋養されており、今期間中に複数の流産が報告された。陽性診断は PCR によって行われた。

#スウェーデン

ウプサラ県の 1 施設において流産 1 件が発生した。

#さらに第 2 四半期後にヴィストラ・イエータランド県およびセーデルマンランド県において 3 件の単独流産が報告された。陽性診断は PCR により行われた。

イギリス

単独流産が 2 件報告された。1 件はリンカンシャーで 2 日齢のサラブレッド種当歳馬の新生子死であり、もう 1 件はスコットランド中央部におけるワクチン接種ウォームブレッド種牝馬における流産であった。陽性診断は胎子、胎盤、胎児組織を用いた PCR 検査にて行われた。

馬ヘルペスウイルス 1・4 型 (EHV-1/-4) による流産

ベルギー

リエージュ州の 1 施設においてワクチン未接種牝馬 1 頭の流産が報告された。陽性診断は胎子の肺及び肝臓組織を用いた PCR 検査によって行われた。型別の報告なし。

馬ヘルペスウイルス 3 型 (EHV-3) 馬痘疹

フランス

馬痘疹の発生が 3 件報告されている。ドローム県、フィニステール県、ソーヌエロワール県の施設でそれぞれ単独発生であった。陽性診断は PCR 検査によって行われ、検体は、1 例は生殖器スワブ、1 例はスワブ（採材部位不明）で、3 例目は検体情報不明であった。

馬ヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による流産

ベルギー

リンブルフ州の 1 施設において単独流産 1 件が報告された。陽性診断は胎子組織による PCR 検査によって行われた。

フランス

ドゥー県およびモルビアン県の施設において単独流産 2 件が報告されている。陽性診断は胎盤組織を用いた PCR 検査によって行われた。

Streptococcus zooepidemicus による流産

ベルギー

東フランダース州で単独流産が 1 件報告された。陽性診断は胎子組織を用いた PCR 検査にて行われた。この施設における 2 例目の流産である。

呼吸器疾患

発生国	EHV-1	EHV-2	EHV-4	EHV-5	EI	ロドコツカス	腺疫	腺疫/EI
ベルギー	1	2	-	3	-	-	1	-
カナダ	-	-	-	-	1	-	10	-
フランス	4	-	17	-	-	#16	20	-
ドイツ	1	-	-	-	-	-	1	-
オランダ	4	-	11	-	1	15	42	-
南アフリカ	#1	-	#1	-		-	-	-
スウェーデン	#2	-	2	-	-	-	2	-
スイス	-	-	-	-	-	-	4	-
イギリス	2	-	4	-	#6	-	-	-
アメリカ	-	-	-	-	6	-	39	1

#四半期後に報告があった追加情報

馬ヘルペスウイルス1型 (EHV-1) による呼吸器感染症

ベルギー

エノー県における1施設で1件が報告された（症状は報告されていない）。陽性診断はPCRによって行われた。

フランス

4件の単独発生が報告された。ウールエロアール県、ピュイドドーム県、オルヌ県それにサルト県における単独発症であった。臨床症状はリンパ節腫大、鼻漏、発熱であった。陽性診断は鼻咽頭スワブによるPCRで行われた。

ドイツ

ノルトライン・ヴェストファーレン州において1件の単独発生が報告された。陽性診断は鼻腔スワブによるPCR検査で行った。

オランダ

フリースラント州、ヘルデルラント州、フローニンゲン州において4件が報告された。2件は単独発症で2件は複数頭の発症であった。陽性診断はPCR検査によって行われた。

#南アフリカ

西ケープ州で3件が報告された（症状不明）。

#スウェーデン

第2四半期後にウプサラ県およびイエムランド県において2件の単独発生が報告された。

イギリス

2件の発生が報告された。1件はクラックマンナンシャーにおける単独発生で、もう1件はハートフォードシャーのワクチン未接種馬における3頭であった。臨床症状は食欲不

振、沈鬱、リンパ節腫脹、鼻漏、発熱であった。陽性診断は鼻咽頭スワブもしくは部位不明のスワブによる PCR で行われた。

馬ヘルペスウイルス 2 型 (EHV-2) による呼吸器感染

ベルギー

2 件が報告された。それぞれ東フランダース州とフラムス・ブラバント州における単独発症であった。臨床症状は発咳、鼻漏、眼漏、発熱であった。陽性診断は鼻腔スワブによる PCR で行われた。

馬ヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器感染

フランス

17 件が報告された。15 件はアルデンヌ県、アリエージュ県、カルヴァドス県、ウール県、マンシュ県、ピュイドドーム県、バルドマルヌ県、イブリーヌ県における施設でそれぞれ単独発症であった。アルデンヌ県の 1 症例は EHV-2 と EHV-5 の混合感染であった。ウール県、ロワールアトランティック県の 2 件はそれぞれ 2 頭ずつ発症した。臨床症状は発咳、鼻漏、プアパフォーマンスそれに発熱であった。陽性診断は鼻咽頭スワブによる PCR 検査で行われた。

オランダ

11 件が報告された。9 件はドレンテ州、フリースラント州、ノールトブラバント州、ノールトホラント州、オーファーアイセル州、ゾイトホラント州それにユトレヒト州における単独感染であり、2 件はフリースラント州における離れた 2 施設において複数頭の感染であった。陽性は PCR 検査によって確認された。

#南アフリカ

西ケープ州の 1 施設において 1 件の単独感染が報告された。

スウェーデン

ダーラナ県とヴェステルボッテン県において複数頭の発生が 2 件報告された。

イギリス

4 件が報告された。それぞれリンカンシャー、ノースヨークシャー、ウォリックシャーそれにウィルトシャーにおける単独発症であった。臨床症状は発咳、沈鬱、鼻漏それに発熱であった。陽性診断は鼻咽頭および鼻腔スワブによる PCR 検査によって確認された。

馬ヘルペスウイルス 5 型 (EHV-5) による呼吸器感染

ベルギー

東フランダース州と西フランダース州において 3 件の単独発生が報告された。臨床症状は発咳、リンパ節腫脹、鼻漏、発熱であった。陽性診断は鼻腔スワブによる PCR で行われた。

馬インフルエンザ (EI)

カナダ

ケベック州においてワクチン未接種の8歳牝馬1頭の発症が報告された。臨床症状は発熱であった。PCRで陽性を確認した。

オランダ

ノールトホラント州において1頭の発症が報告された。陽性診断はPCRにより行われた。

イギリス

4件の発症が報告された。フォールカーク、ケント、ノースヨークシャー、ウォリックシャーの施設においてそれぞれ単独発症であった。感染馬3頭はワクチン未接種であり1頭は接種歴不明であった。未接種馬のうちの1頭は *Streptococcus zooepidemicus* との混合感染であった。発症馬は全頭が新規入厩馬であった。臨床症状は発咳、食欲不振、沈鬱、リンパ節腫大、鼻漏、眼漏、それに発熱であった。陽性診断は鼻咽頭もしくは鼻腔スワブのいずれかを用いたPCR検査で行われた。

#第2四半期後に2件が報告された。1件はノースヨークシャーのワクチン未接種馬単独発症であり、もう1件はマージーサイドの1施設におけるワクチン未接種馬2頭の発症であった。臨床症状は発咳、食欲不振、沈鬱、リンパ節腫大、眼漏および鼻漏であった。陽性診断は鼻咽頭スワブによるPCR検査で行われた。

アメリカ

6件が報告された。4件はテキサス州およびワシントン州における単独発症であり、2件はアラバマ州とワシントン州、それぞれ2頭の発症であった。臨床症状は発咳と鼻漏であった。注目すべき点は、2件の発症の感染馬は直近に家畜市場で購入された馬であったことである。

ロドコッカス・エクイ

フランス

13件が報告された。11件はロワールアトランティック州、マンシュ州、オルヌ州およびバルドマルヌ州の施設における単独発症であった。1件はカルヴァドス州の1施設における2頭の発症、1件はオルヌ州の1施設における頭数不明の発症であった。陽性診断は気管支肺胞液、膿性排出物、スワブもしくは気管洗浄液によるPCR検査によって確認された。

#第2四半期後に3件が報告された。それぞれはカルヴァドス州、ロワール州、バルドマルヌ州の施設において単独発症であった。陽性診断は気管洗浄液、膿性排出物、鼻咽頭スワブのPCR検査によって確認された。

オランダ

15件が報告され、いずれもフレボラント州、フリースラント州、ヘルデルラント州、ゴルレダイク（フリースラント州の町）、ノールトブラバント州、ノールトホラント州、オーファーアイセル州およびユトレヒト州における単独発症であった。PCR検査により陽性が診断された。

腺疫

ベルギー

リンブルフ州において1件の単独発症が報告された。PCR検査により陽性が診断された。

カナダ

10件が報告された。7件はオンタリオ州とケベック州の施設における単独発症であり、1件はケベック州1施設における2頭、1件はケベック州1施設における4頭、1件はオンタリオ州1施設における5頭の発症であった。臨床症状は、発咳、リンパ節腫大、鼻漏耳下腺炎、発熱、顎下腺炎、顎下腺及び直腸周囲の膿瘍形成であった。

フランス

20件の発生が報告された。13件はコートダモール県、コレーズ県、オートガロンヌ県、アンドルエロワール県、パドカレー県、ピュイドドーム県、ローヌ県、テリトワール・ド・ベルフォール県における単独発症であった。4件はアルデンヌ県、カルヴァドス県、ロワールアトランティック県、イブリーヌ県における2頭の発生であり、1件はピュドコム県における3頭の発症、2件はオートザルプ県とピュイドドーム県における4頭の発症であった。臨床症状はリンパ節腫脹、鼻漏それに発熱であった。陽性診断は喉嚢洗浄液、鼻咽頭のスワブもしくは膿、もしくは膿性鼻汁によるPCR検査で確認した。

ドイツ

シュレースウィヒ・ホルシュタイン州における単独発症が報告された。臨床症状は発咳、鼻漏、発熱、リンパ節腫脹であった。喉嚢洗浄液によるPCRで陽性を診断した。

オランダ

ドレンテ州、フリースラント州、ヘルデルラント州、フローニンゲン州、ノールトブラバント州、ノールトホラント州、ゾイトホラント州、オーファーアイセル州それにユトレヒト州において42件が報告された。PCRで陽性を確認した。

スウェーデン

ブレーキング県、ノールボッテン県において2件の発生が報告された。

スイス

4件の発生が報告された。2件はトゥールガウ州およびチューリッヒ州における単独発症であり、2件はアールガウ州およびグラウビュンデン州における多頭数発症であった（具体的な頭数は不明）。臨床症状は発熱、鼻漏、呼吸器症状、下顎リンパ節の腫大であった。陽性診断は抗原検出試験（型別不明）もしくはPCR検査によって行われた。

アメリカ

39件が報告された。37件はアリゾナ州、フロリダ州、カンザス州、ミシガン州、オハイオ州、ワシントン州およびウィスコンシン州における単独発症であり、2件はフロリダ州とワシントン州における各2頭の発症であった。臨床症状は発咳、食欲低下、沈鬱、四肢浮腫、リンパ節膿瘍形成、リンパ節腫大、鼻漏、発熱、呼吸器症状、リンパ節の自壊それに下顎部の腫脹であった。

腺疫／馬インフルエンザ

アメリカ

ミシガン州の1施設におけるミニチュアホース離乳牡馬において馬インフルエンザとの混合感染が1件報告された。臨床症状は発熱と鼻漏であった。

消化器疾患

発生国	クロストリジウム性腸炎	馬コロナウイルス	ロドコッカス	サルモネラ症
カナダ	-	-	-	1
フランス	-	-	6	-
オランダ	-	-	-	6
スイス	1	2	-	-

クロストリジウム性腸炎

スイス

チューリッヒ州において1頭が報告された。臨床症状は下痢であった。*Clostridioides difficile* 毒素の検出と *Clostridium perfringens* 培養によって陽性と診断した。

コロナウイルス

スイス

2件の発生が報告された。1件はアールガウ州における単独発症であり、1件は同じくアールガウ州における頭数不明の発生であった。臨床症状は発熱と下痢であった。診断はPCR検査によって行われた。

ロドコッカス

フランス

6件の発生が報告された。それぞれカルヴァドス県、ロットエガロンヌ県、モルビアン県、ソーヌエロワール県、サルト県における単独発症であった。糞便を用いた細菌学的検査、PCR検査および培養検査によって陽性を確認した。

サルモネラ症

カナダ

ケベック州においてサルモネラ症（報告では、多剤耐性でグループC₂の血清型Newportと記載）の単独発症1件が報告された。臨床症状は発熱であった。

オランダ

フリースラント州、リンブルグ州、ノールトブラバント州、オーファーアイセル州において6件の単独発症が報告された。診断はPCR検査によって行われた。

神経疾患

発生国	EEE	EEV	EHV-1	WNV
ベルギー	-	-	1	-
カナダ	-	-	2	-
エクアドル	1	-	-	-
フランス	-	-	-	1
ドイツ	-	-	1	-
南アフリカ	-	#1	-	#1
スウェーデン	-	-	#1	-
スイス	-	-	1	-
イギリス	-	-	1	-
アメリカ	14	-	14	-

#四半期後に報告があった追加情報

東部馬脳炎 (EEE)

エクアドル

グアヤス州サンボロンドンにおいてワクチン未接種の競走馬 1 頭が発症した。臨床症状は運動失調、眼振、発熱、虚弱であった。陽性診断は IgM 捕捉 ELISA によって行われた。

アメリカ

フロリダ州とジョージア州において 14 件の単独発症が報告された。臨床症状は不安感、運動失調、旋回、元気低下、後躯運動失調、起立不能、舌の格納不全、食欲低下、協調運動失調、沈鬱、倦怠、筋痙攣、発熱、横臥、虚弱など、症例によりさまざまな報告が認められた。

ウマ脳症ウイルス (EEV)

#南アフリカ

ウマ脳症ウイルスは南アフリカの風土病であり、以下の 6 州における発生が報告された。東ケープ州 (4 頭)、ハウテン州 (15 頭)、クワズール・ナタール州 (2 頭)、ムブマランガ州 (1 頭)、ノースウエスト・プロヴィンス州 (4 頭)、西ケープ州 (11 頭)。

馬ヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による神経疾患

ベルギー

エノー州のワクチン接種馬における 1 頭が報告された。臨床症状は非特異的な神経症状、麻痺、発熱であった。鼻腔スワブを用いた PCR 検査で陽性を確認した。

カナダ

2 件が報告された。1 件はケベック州における単独発症であり、もう 1 件はケベック州の異なる施設における 2 頭の発症である。臨床症状は疝痛、四肢浮腫、横臥、起立不能、後肢・膀胱・肛門の不全麻痺、尾の脱力を伴う四肢固有受容性運動失調、前庭症候群であった。

ドイツ

ノルトライン・ヴェストファーレン州における単独発症が報告された。陽性診断は鼻腔スワブによる PCR 検査で確かめられた。

#スウェーデン

第 2 四半期後にウプサラ県における 1 件の単独発症が報告された。陽性診断は PCR 検査によって確かめられた。

スイス

チューリッヒ州における単独発症 1 件が報告された。臨床症状は中枢神経症状であった。陽性診断は PCR 検査によって行われた。

イギリス

レスターシャーにおけるワクチン未接種サラブレッド牝馬の単独発症が報告された。臨床症状は後肢不全麻痺、横臥および尿貯留であった。陽性診断は鼻咽頭スワブによる PCR 検査で行われた。

アメリカ

14 件の発生が報告された。10 件はメリーランド州、オハイオ州、ニューヨーク州、ノースダコタ州、ペンシルバニア州、テキサス州、ヴァージニア州、ウィスコンシン州における単独発症であった。2 件はカリフォルニア州とオクラホマ州における 2 頭の発症であり、1 件はオハイオ州の 1 施設における 3 頭の発症、1 件はウィスコンシン州の 1 施設における頭数不明の発症であった。臨床症状は運動失調、横臥、後躯不全麻痺、遊泳運動、発熱、呼吸困難、尿貯留であった。

ウエストナイルウイルス (WNV)

フランス

シャラントマリタイム県における単独発症が報告された。陽性は ELISA によって確認された。

#南アフリカ

クワズール・ナタール州における単独発症が報告された。

その他の疾患

発生国	AHS	アナプラズマ症	馬コロナウイルス	EIA	EGS	EVA	ピロプラズマ症
カナダ	-	-	-	2	-	-	-
チリ	-	-	-	1	-	-	-
オランダ	-	2	5	-	-	-	1
南アフリカ	#1	-	-	-	-	-	#1
スイス	-	-	-	-	-	-	1
イギリス	-	-	-	-	#48	1	-
アメリカ	-	-	-	4	-	-	-

#四半期後に報告があった追加情報

アフリカ馬疫 (AHS)

#南アフリカ

アフリカ馬疫 (AHS) は、西ケープ州の AHS 管理地域を除き、南アフリカの風土病である。流行は以下の 8 つの州で発生し、報告された。東ケープ州 (18 頭)、フリーステイト州 (1 頭)、ハウテン州 (16 頭)、クワズール・ナタール州 (13 頭)、リンポポ州 (2 頭)、ムプマランガ州 (2 頭)、北ケープ州 (1 頭)、ノースウエスト・プロヴィンス州 (5 頭)。AHS 管理地域を含む西ケープ州では発生しなかった。

アナプラズマ症

オランダ

オーファーアイセル州とユトレヒト州でそれぞれ *Anaplasma phagocytophilum* の単独発症が 1 件ずつ報告された。陽性診断は PCR にて行われた。

馬コロナウイルス

オランダ

5 件の発生が報告された。2 件はノールトブラバント州とゾイトホラント州における単独発症で、残り 3 件はユトレヒト州の 3 施設における頭数不明の発生である。陽性診断は PCR にて行われた。

馬伝染性貧血 (EIA)

カナダ

ブリティッシュコロンビア州およびマニトバ州でそれぞれ 1 件の単独発症が報告された。

チリ

首都州サンティアゴ県において 16 頭が関与した 1 件が報告された。1 頭は死亡し、15 頭は安楽死処分された。陽性診断はゲル内沈降反応（Coggins Test）によって確かめられた。

アメリカ

4 件の発生が報告された。3 件はテキサス州のそれぞれ別施設における単独発症であった。1 件はテキサス州の 1 施設における 13 頭であった。

馬のグラスシックネス (EGS)

#イギリス

19 件が報告された。17 件はアバディーンシャー、チェシャー、カンブリア、イースト・サセックス、ランカシャー、リンカンシャー、ノーフォーク、ノースヨークシャー、オックスフォードシャー、パース、スターリング、サフォーク、タインアンドウィア、ウエスト・サセックスにおける単独発症であった。1 件はアバディーンシャーにおける 3 頭、1 件はオックスフォードシャーにおける 5 頭の発生であった。

#第 2 四半期後にさらにイングランド、スコットランドおよびウェールズにおける 29 頭の発生が報告された。

馬ウイルス性動脈炎

イギリス

エジンバラにおいて 2021 年にスペインから輸入されたアンダルシアン牡馬 1 頭が陽性と報告された。当該馬は交配前に採材された。イギリスにおける交配歴はなく、ワクチン接種歴は不明であった。陽性診断は精液による PCR 検査で行われた。

ピロプラズマ症

オランダ

ヘルデルラント州において 1 頭報告された。陽性診断は PCR で確かめられた。

スイス

トゥールガウ州において 1 頭報告された。臨床症状はブアパフォーマンス、肝臓マーカーの上昇であった。陽性診断は PCR によって行われた。

#南アフリカ

ピロプラズマ症は南アフリカの風土病であり、*B. caballi* と *T. equi* について全州から報告された。

B. caballi の症例—ハウテン州 (1 頭)、西ケープ州 (1 頭)

T. equi の症例—東ケープ州 (2 頭)、フリーステイト州 (1 頭)、ハウテン州 (44 頭)、クワズール・ナタール州 (5 頭)、リンポポ州 (2 頭)、ムプマランガ州 (3 頭)、北ケープ州 (9 頭)、ノースウエスト・プロヴィンス州 (4 頭)、西ケープ州 (30 頭)。